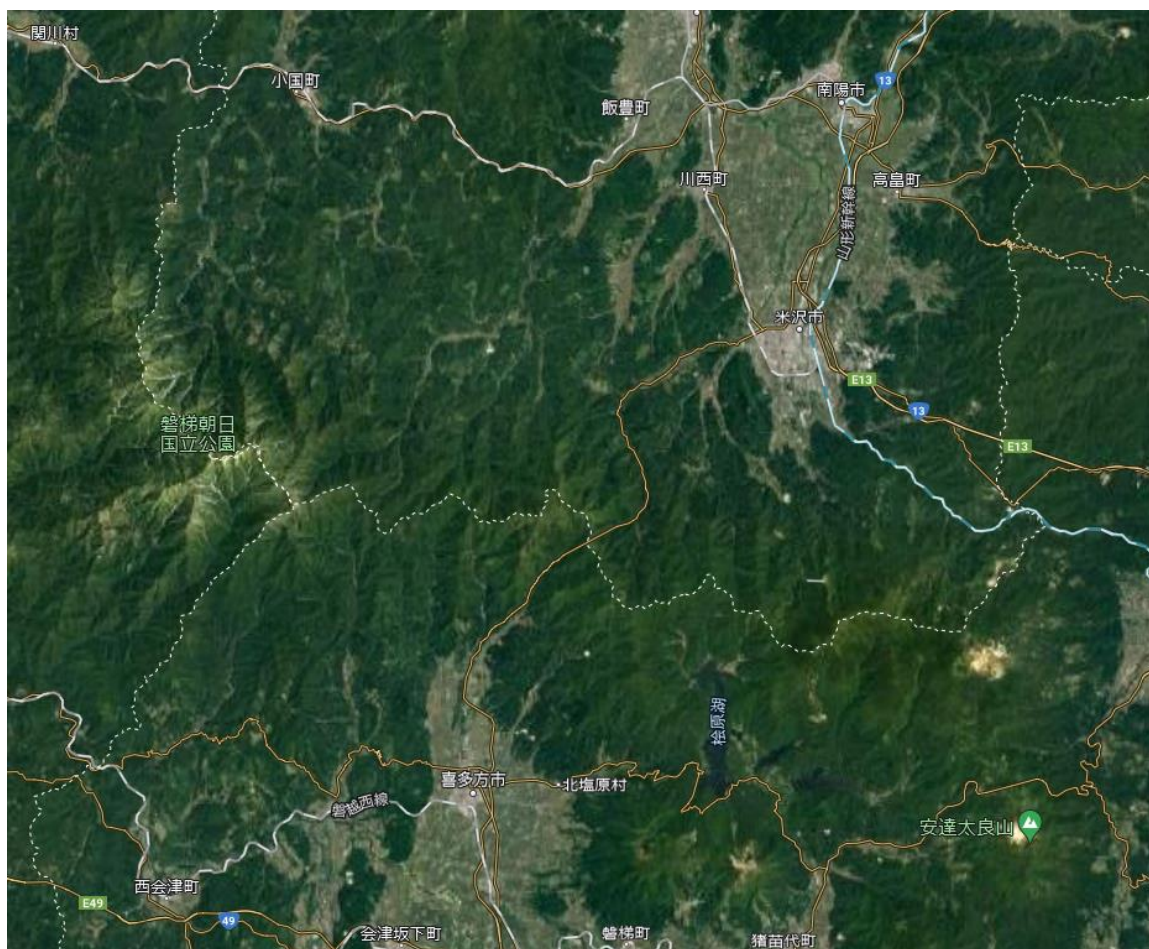


# 写真アルバムから

## シリーズC 寺社華風月 (白黒)

### C7 小諸・弥彦・裏磐梯 1975

森隆一



磐梯朝日 (Google Mao)

## C7. 小諸・弥彦・裏磐梯 1975

### 小諸

#### 小諸城

清里で開催されたサマー・セミナーの終わった後、小海線を終点まで乗ることを目標として、小諸に行くことにした。小海線という名前には郷愁に似た感じを抱いていた。“山ばかりなのに山梨県”というのはよく聞くことである。これに対し、“高原を走る小海線”を思いついたが、かつては湖があったが地震により消滅したということを知った気がする。

小諸について知識は、島崎藤村の詩

小諸なる古城のほとり 雲白く遊子悲しむ . . .

とこの詩にある小諸城があるという程度であった。

小諸に到着したのは夕方、宿を確保し、食事をしに街を歩いたことはぼんやり覚えている。恐らく翌日、小諸城を訪れた。次の3枚はこのときの写真である。右端は撮った記憶がない。

懐古園という名前と、城門から、大きな寺を見るような気持ちで、1時間程度で切り上げる予定で訪れた。小藩とはいえ、戦国時代から続く

城で、三の丸まで残っていて、ゆっくり撮影していたら、1日はかかり  
そうなので、メモ的な写真に止めることにしたと記憶している。



## 布引観音

布引観音は車を購入した1977年以降に行ったことは覚えているが、アルバムからは、この時にも訪れていたようである。

次の3枚の写真は、撮ったことは記憶している程度で、詳細は覚えていない。次の駅に向かうバスが1時間ほど後で、その次はかなり遅くなり、駅に着くのは夕方になるということで、少し撮影した後、駅に向かったようである。



駅について、次にどうするかを決めることになる。考えられるのは、小諸周辺・軽井沢など群馬県・長野か新潟の3つで、結果としては、新潟に行ってみることになった。新潟で宿をとれなかったら夜行でかえる

つもりであったが、宿を撮ることが出来、旅を続けることが出来た。当日の昼過ぎは宿をとれることが出来ることあることは後でわかった。

## 弥彦神社

翌日、午前中は弥彦神社に出かけた。このときでは、新潟近くで知っている唯一の寺社であった。



弥彦駅から、しばらく歩くと、左の写真の参道にいたり、その奥に、右の一の鳥居が見られる。‘まつり’の字が書かれた幟が写っているので、「弥彦 まつり」でGoogle検索したら、「弥彦燈籠まつり」が7月

24日から7月26日まで開催されるという。その直前に訪れたはずである。以下はこの時撮った写真である。

上の左の写真は、拝殿前の石段と思われる。右の写真と下の写真はGoogle Mapでは確認できなかった。





## 磐梯朝日

## 鷹巣温泉

新潟駅に戻り、次の行先を考えた。地図を眺めていると、米沢と坂町を結ぶ、米坂線の中ほどに鷹巣温泉というのが、目に付いた。鷹の巣館という旅館の1軒宿のようで、予約がとれたので、行くことにした。米坂線は川沿いを縫って走っている。川はかなりの水量で、‘五月雨を集

めて早し最上川’を思い出したが、この川は最上川ではなく荒川であった。

米坂線に乗ったことは確かであるが、宿までの行程は覚えていない。地図を見ていると、越後下関駅で降り、バスに乗っていた可能性が高い。宿は吊り橋を渡っていくようになっていた。当時この用語があったのかは疑問だが、‘秘湯温泉’的なものを期待したが、多少がっかりした記憶がある。



上の写真はこの鷹の巣館である。左が玄関で、右が戸建ての客室であった。泊った部屋はこの2階にあった。

## 天元台

翌日は、鷹巣温泉から米沢に向かった。観光案内所で白布温泉と天元台を勧められここに泊まることにした。





上の写真は展望台で撮ったものと思われるが定かではない。

また、次は泊まったホテルと、ホテルから溪谷を撮ったものと思われるが、Google Mapでは確認できていない。(右の写真の中央の字は、ベタ焼きのスキャンでは字は読みとれないが、フィルムスキャンが出来れば判読できるはずである。)



## 裏磐梯（五色沼）

次の日は西磐梯スカイバレーを通り、五色沼に向かった。



上の写真は磐梯山と五色沼である。カラーでなければ五色を表せない。

## 磐梯吾妻スカイライン

五色沼からは、1日留まる・会津若松・郡山・福島が考えられる。当時は、旅行中に洗濯をすることは考慮していなかった。コイン・ランドリが無い場合は連泊が必要になることによる。ということで、磐梯吾妻スカイラインを通り、福島に抜けルートを選択した。



上の写真は、途中にある吾妻小富士とその麓の浄土平レストハウスで撮ったものである。

福島で旅を打ち切ることにしたら、おいしい肉を食べたくなった。宿の付近にステーキ・ハウスを見つけた。広い鉄板が仕込まれたカウンタ・テーブルで肉をやくという店である。かなり高そうで少々ビビっていたが、3千円程度で済み、満足した。食事にも少し金をかけることも今後考えることにした。

## あとかき

旅行で白黒写真を主として撮るのは始めてであったが、‘旅程が写真撮影に対応していない’ということに気がついた。考えてみれば、京都の寺社は学生時代に殆どを巡っていたので、すぐに、写真を撮ることができた。対策としては、2泊することにした。

新潟では、起き得るがあまり例のない凡ミスにより、トラブルが起きた。1970年代は、大都市を主に、ビジネス・ホテルが全国的に展開され始められた時と思っている。地方都市では、〇〇グランドホテルが現れた。これは、ビジネス・ホテルに従来のシティ・ホテルの機能を付加したものととらえている。新潟では、初め安いビジネス・ホテルから電話をしたが、満室であった。ここで、〇〇グランドホテルクラスに電話したら予約をとることが出来た。

ホテルに行き、フロントで名前を告げると、その名前での予約は入っていないと言われた。ついでに、空き室はないかと聞いたら、満室であるということであった。途方に暮れて、この先を考えた。他の宿をさがすか、旅を切り上げ、夜行で帰るかのどちらかがうかび、とにかく、駅に向かおうとしたとき、ちょっと調べるから待てと言われた。暫く待つ

と、〇〇ホテルにその名前の予約が入っているということで、無事泊ることが出来た。

部屋に入って、ガイドブックを見たら、2つのホテルは上下に並んでいて、上のホテルに電話したつもりで、下のホテルに電話をしていたようだ。2つのホテルは信濃川を挟んで川からは同じような位置にあり、似たようなホテルである。対応が速かったのも間違える人がかなりいたのではないかと思った。